

# 令和6年度 愛知教育大学入学試験問題

## 標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名： 総合問題（福祉）

### 問題Ⅰ 標準的解答例

男性が敗残の人生を過ごしてきたこと、やけっぱちになって死んでもいいやという時を何度か過ごしてきたが、死のうとしてもそんなに簡単には死ねるものではないという実感を持っているのではということ、この女性は推察し、思いを込めて「死ぬのだってなかなか大変ですよ。なかなか死ねないのしょう？」と語りかけている。お酒に溺れて道端に寝転んでいることも、自ら死のうとすることも、一般的には良くないことなので「死んではいけない」「お酒なんかやめなさい」と言いそうだが、男性の状態や発言については批判せず、相手の状況を思いやっている。批判せずに受け止めるという姿勢が支援者としての姿勢だと思われる。

### 問題Ⅱ 標準的解答例

すべての子どもは、大人と同じように、1人の人間として人権を持っていることが、子どもの権利とされている。大人と同じ人権が求められているため、大人が子どもに代わり決めるよう推奨されている状況は、大人と子どもの権利を区別していることにつながり適切とは言えない。また、子どもは遊んだり、休んだりする権利を持っている。遊ぶことや休むことは、子どもの生活にとって必要不可欠のものであり、子どもが義務や責任を果たすことで権利を行使できる状況は、子どもの成長に負の影響を与えると思われる。さらに、あらゆる暴力から身を守られるということが子どもの権利とされているなか、子どもが義務や責任を果たさなければ権利が守られない状況は、暴力を容認することにもつながるため適切とは言えない。